

「吉岡斉の仕事を考える」研究会報告書 表紙等

<https://hdl.handle.net/2324/2543944>

出版情報：「吉岡斉の仕事を考える」研究会報告書，2019-01-20. 「吉岡斉の仕事を考える会」実行委員会
バージョン：
権利関係：

はじめに

九州大学理学部名誉教授 中山 正敏

吉岡斉（1953-2018）は、東大物理学科を卒業後、大学院科学史・科学哲学に進み、中山茂の指導を受けた。『通史 日本の科学技術 1945-1995』学陽書房、『[新通史] 日本の科学技術 世紀転換期の社会史 1995-2011』原書房の編集と執筆など、科学技術の社会史的研究を行った。また、科学社会学を構築し、理論および実践の両面で多くの仕事をした。

2018年1月に九大大学院比較社会文化研究科教授のまま早逝した。各新聞の追悼記事では、脱原発を主張した論客で、政府、業界、市民の各層すべてと話しができる人であったと惜しむ声が多かった。これは、「事実立脚し、論理にしたがって考察し、それらに基づいて行動する」という氏の姿勢に支えられてのことである。そこで有志が集まり、吉岡が考えたこと、なしたこと、やり残されたことを学問的に点検して、今後の参考にする会を企画し、2019年1月20日に九大医学部百年講堂で開催した。

この報告書は、その会の記録である。収録されているものは、以下の通りである。

- * 集会の呼びかけ文
- * 集会のプログラム
- * 各講演の概要フォルダー（講演者による報告文、資料など）